

レジメンcode:	C16-37
適応がん種:	胃癌
レジメン名:	Zolbetuximab+sLV5-FU2-IF
間隔:	2週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	ビロイ	400	mg/m ²	点滴[*1]	d1
I-LV	レボホリナート	200	mg/m ²	点滴(2時間)	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	400	mg/m ²	点滴(全開)	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	2400	mg/m ²	点滴(46時間)	d1

*臨床試験では、オキサリプラチンの投与は **最大12回まで** とされ、その後 C16-37:Zolbetuximab+sLV5-FU2-IF を疾患進行又は許容できない毒性まで継続した

*オランザピンが治療前日から服用(糖尿病患者は除く)となるため、あらかじめ処方が必要です

*入院化療時、悪心嘔吐出現時の メトクロプラミド注 1A の医師指示が必要です

[内服]

day0~4(5日間)

- 1) オランザピン 5 mg/日
-
- 内服 夕食後 **ビロイ投与前日から服用**
- * 糖尿病禁忌**

day2~4

- 1) デカドロン 8 mg/日
-
- 内服 朝食後

[注射]

day1【ケモセーフ使用】

- 1) 生食 20ml 1 A
-
- ポート確認
- 2) アロカリス 235mg 1 V
- ファモチジン 20mg 1 A
- デキサート 6.6mg 1 V
- デキサート 3.3mg 1 A
- パロノセトロン 0.75mg 1 V
- ポララミン 5mg 1 A
- 生食 50ml 1 本
-
- 主管① 点滴 30分
- 3) 生食 50ml 1 本
-
- 主管② 点滴 15 分

4) 生食	100ml	1 本	
	▶側管①	点滴	ビロイを中断した場合のルートキープ用
5) ビロイ		400 mg/m ²	1Vあたり注射用水5mlで溶解
注射用水	100ml	1 本	12時間以内に投与終了すること
生食	250ml	1 本	12時間を超えた場合は残液破棄
			インラインフィルター必須
	主管③	点滴	投与速度は別表[*1]参照
6) 生食	50ml	1 本	
	主管④	点滴	15 分
7) レボホリナート		200 mg/m ²	
ブドウ糖液5%	250ml	1 袋	
	主管⑤	点滴	2時間
8) フルオロウラシル(5-FU)		400 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	50ml	1 本	
	主管⑥	点滴	全開
9) 生食	50ml	1 本	
	主管⑦		フラッシュ
10) フルオロウラシル(5-FU)		2400 mg/m ²	
生食	100ml	総液量140ml になるように調製	
	主管⑧	点滴	46時間
			(インフューザー)
〈所要時間 ー 〉			

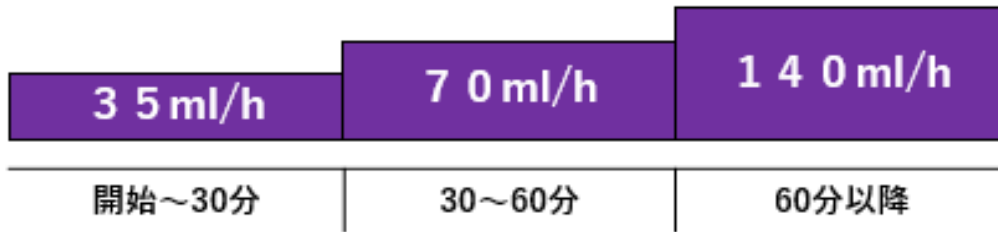
day3

1) 生食	10 ml		
			ルートロック
〈所要時間 ー 〉			

[*1]

悪心・嘔吐に対する投与速度のマネジメント

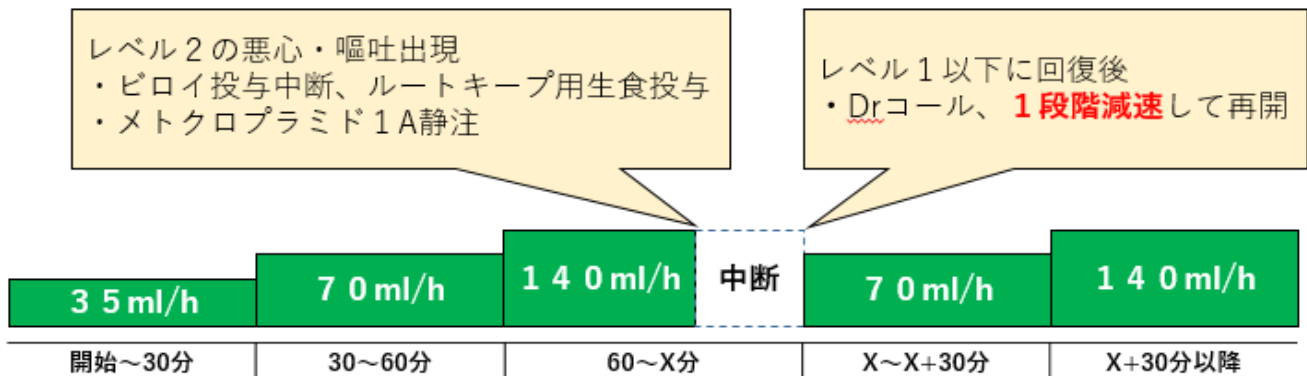
悪心・嘔吐 レベル1以下



* 悪心、嘔吐 レベル2出現時

- ①ピロイの投与を中断。ルートキープ用の生食を投与しメトクロプラミド1A 静注。
- ②レベル1以下に回復後、医師へ再開の指示を確認し、**症状出現の1段階前の速度から再開**する。

悪心・嘔吐 レベル2出現時 (中断例)



	レベル1	レベル2
悪心	吐き気はあるけど食べられそう	吐き気があって食べられない
嘔吐	なし	あり

大切なのは患者さんの感覚

「中断希望」や「症状でつらい状態」→レベル2と判断

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【(SPOTLIGHT試験) Lancet.2023;401(10389):1655-1668 (PMID:37068504)】

【適応】

CLDN18.2陽性かつHER2陰性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

【ピロイ】

*希釈後、室温で12時間以内に投与を完了すること。また2～8℃で24時間以内に使用すること。
12時間を超えた場合は、残液を破棄すること。

*インラインフィルター(0.2 μm)を使用する。